

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当エリアは今後急速に高齢化が進行する見込みである。介護予防、ロコモ予防等の取り組みは引き続き重要であるが、それでも地形や住居の制約、疾患等から移動が困難になり、地域社会から孤立する方が増えるリスクが高い地域であると思われる。
地域支援の担い手の発掘と見守りを兼ねた気軽に立ち寄れる居場所を各地区につくっていくことが必要であると思われる。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	エリア内の誰もが気軽に立ち寄れる場所に、地域住民の居場所となる拠点を、住民主体で継続的に設置できるよう調査、交渉を行っていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	認知症の方との交流の機会や、知識を生かせる、経験を積めるような機会を考えていく。 また、認知症当事者の方、当事者家族の方に話を聞けるような機会を設ける。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	毎月の会議等で地域課題について情報交換を行い、地域ケア会議の議題として適切なケースを検討する。・包括三職種で地域ケア会議に挙げるケースの提案を1人1つ行う。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域資源情報シートのアップデートを行ない、現在有効な情報を把握することで、適切な支援先への情報提供ができるようにする。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	区と包括との定例カンファ等に5職種で参加し、個別課題の積極的な把握、分析、改善に努め、地域支援にもつなげていく。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

以前から課題となっていた「地域の中で孤立している独居や夫婦のみの高齢者、ケアプラザで行っている事業等に参加しない、できない高齢者へ向けた事業」を検討し、実施してきた。どうしたら出てこれるかといった移動の問題だけでなく、どんな事業に参加したいと思えるかを検討する必要があることなど、様々な課題が新たに浮かんできた。
新規の相談も増えており、地域の急速な高齢化が進んでいることを実感している。
ケースカンファレンスに全職種で参加し、地域の個別ケースから新たな課題を見つけて事業に結び付けていくことを心掛けた。まだ具体的な策は見つけられていないが、これらを今後の事業につなげていきたい。

区からのコメント

地域課題を把握し、独居高齢者や夫婦のみ世帯に対して、地域ケアプラザとしての取組を検討しています。
担当している圏域について、急速な高齢化や集合住宅が多いことにより、階段等の昇降が困難になることが考えられるため、移動や買い物支援といった、高齢者が安心して生活できる仕組みづくりの検討も必要になると考えています。
今後も個別支援や地域課題について、積極的に情報共有、取組の協働を図っていただくようお願いいたします。